

日本山岳会関西支部 夏の懇談会に出席して

尾崎 進

東チベットカンリガルポ山群
口ブチン峰初登頂 (KG-2
6805m)

講師 神戸大学・中国地質大
学合同登山隊長 井上達夫氏

ヤル・ツアンポー川が流れを
東から南に変える所謂大屈曲点
付近から東南に全長280kmに
渡って広がるカンリガルポ山群
は6000m級の未踏峰が林立
する地球上に残された秘境とな
っているが、ただの一峰もその
頂を人類に明け渡すことなく今
日に到っていた。

2009年11月5日、神戸大
学・中国地質大学(武漢)合同
崗日嘎布学術登山隊はKG-2
(6805m)の初登頂に成功
した。最初に頂上に達したのは
チベット出身の学生、徳慶欧珠
(Deqing Ouzhu)と次仁旦塔
(Ciren Danda)の二人であった。
チベット出身の学生が故郷の処
女峰に初登頂するのは快挙であ
り賞賛に値する。引き続き11月
7日、日本人、矢崎雅則と近藤

昂一郎の二人が頂上に達した。
そしてこの山群によく初登
頂時代が訪れた。《日本山岳会・
山岳2010年カンリガルポ
山群・ロブチン峰(KG-2)
初登頂―神戸大学山岳会 井上
達男―より》

今年の夏は特に暑い。こんな時
こそ高い山の話の聞かせてもら
ってこの暑さを忘れたいと家を
出た。電車は冷房がよく効いて
いるが地下街は蒸し風呂だった。
ペットボトルの冷茶を買った売
店のおばさんと「暑い暑いと言
つてもしょうがないがそれにし
ても暑いですわねえ」とお互い顔を
見合わせてため息をついた。

懇談会は午後6時半、重廣支
部長の簡潔な挨拶で始まった。
セミナー室は40名をこす盛況だ
った。先ず井上隊長(神戸大学
山岳会々長)は現役の山岳部々
員6名を紹介された。その中の
一人ロブチン峰登頂者・近藤昂
一郎氏はじめ学生のみなさんは
紅顔、元氣浣刺だった。隊長の
軽妙な語り口と手馴れたパソコ
ンの操作で最初に映されたコオ
ロギには驚かされた、がこれは
この学術登山隊の表徴だった。
あとは素晴らしい東チベットの
山々がつぎつぎとスクリーンに

紹介され、紺碧の天を突く俊峰
の数々に感嘆した。隊長はこの
遠征隊の成功はチームワークの
たまものと語られた。海外では
中国登山協会・中国隊員、国内
では支援の学校、山岳会員に対
する感謝の心がにじみでて聞い
ていて爽やかだった。《この快
挙は日本山岳会2009年の晩
餐会でも報告され、また201
0年「山岳」に詳しく発表され
たことは周知である》。講演が

終わった隊長は学生支援のため
「特に皆様には安くするからこ
の本を買ってほしい」と話され
たので、本はすぐ売りされた。
私は「この隊長がいてこの登山
が成功した」と肌で感じた。そ
のあとホールでの懇親ビールパ
ーティーはいつものように楽し
く時間を忘れた。その夜からじ
つくり読ませてもらったこの

「山と人第18号―ロブチン峰初
登頂―」は立派な報告書だった。
ここで井上隊長の嬉しい一説を
紹介させてもらおう。
「登山スタイルが多様化して
いる現代、神戸大学は伝統的に
「未知への挑戦」を掲げて「探検
的登山」を実践して今日に到っ
ているが、その伝統を維持する
には地球上の未踏峰は登りつく

されて方針変更を余儀なくされ
つつある、と考えがちであった。
そこに一石を投じる今回の学術
登山隊の成功である。又、この
ヒマラヤの東で初登頂を目指し
た登山活動をこれから百年続け
ても全ての6000m級の未踏
峰を登り尽くすことは不可能で
はなかるうか。このたびの登山
で明らかになったカンリガルポ
山群東部の6000m級の山々
は多くが急峻で極めて困難な姿
かたちをみせている。」「山と
人―ロブチン峰初登頂―カン
リガルポ山群登山史よりP17
7抜粋。最近、私はヒマラヤ登
山はもう終わったと考えてきた。

また平井一正先生(前神戸大
学山岳会会長)の「初登頂―花
嫁の峰から天帝の峰へ」を読み
かえした。話は遡って、ちよっ
と長くなるかもしれないが、こ
の度の成功に到る端緒・天帝の
峰クラーカンリ(1989年神
大初登頂)の一節を掲げさせて
もらって神戸大学の未知の山々
への執念を想起したい。
「(1984年10月北京から)帰
国前夜、宴席で隣に座った史占
春が、私の耳もとでそつとささ
やいた。「クラーカンリはむつ
かしいと言ったが、もう一度検

討してみよう。申請書はクラーカンを第一、ニエンチンタングラ山を第二候補として出さない。」マオタイの杯を何度も傾けながら、私はかすかな希望を抱いた。テレビとラジオで中国語の勉強をしてきた自分の努力が、少しは報われたおもしろい。(P246粘りの交渉)より)

(1985年11月)世界中の関係者が秘かに狙っていた目標の二つ(クラーカンを横断山脈)とも手中にした。是非ともこの目標にあさわしい、神戸大学として誇るに足る隊を組織して、関係者の厚意に応えなければならぬ。おおよそ、一つの事業をなすためには、その事業を完成させるまでに努力する推進者、良き理解者、リーダー、そして組織が必要である。幸いにして、神戸大学は昔から国際交流が盛んであり、また1985年の日本チリ合同パタゴニヤ探検など、登山と探検は活発に行っており、事を起こす下地は十分にある。(P252次々に難関突破)より)

このクラーカンを峰初登頂からロブチン峰初登頂に到る神戸大学の4半世紀に亘る「未知へ

の情熱」に感嘆するとともに、現今部員不足に悩む大学山岳部・山岳会がこれからの目指すべき一つの登山形態を教示するものであるとずいぶん勉強させてもらった。

おわりに私事で恐縮です。1958年春、キレットから北穂の頂上にでると沈痛の神戸大学山岳部の方に「滝谷のクラック尾根でうちの二人が遭難した」と聞かされた。すぐその一人が関西学生山岳連盟で顔見知りの(お互いに言葉を交わしたことはなかったが)山内純二さんと知り私の予感的中した。すでに遺体は滝谷になかった。ザイルパーティーの、もうお一人青木秀哉氏は当時、岐阜登高会でご活躍の青木寿一氏の実弟であることを知ったのも最近である。

平成22年度夏季懇談会 参加者名簿

新井 浩 井上達男 岩崎しのぶ
浦上芳啓 尾崎 進 大津陸郎
大西康郎 斧田一陽 柏木宏信
金井健二 金井良碩 釘本武昌
久保和恵 黒田記代 河野直子
神戸大学山岳部4名 小島一喜
小寺佳美 阪下幸一 鹿田匡志

重廣恒夫 城 隆嗣 先水美智子
高田 誠 田島 汎 田中祥介
辻 和雄 戸島泰三郎 中谷絹子
中村久住 秦 康夫 廣瀬健三
廣田猛夫 前田正彰 宗實二郎
宗實慶子 村田かおり 茂木完治
山内幸子 山田 健 山田博利
山並久次 山本光二 橋本圭之助
仕名野完治 平井一正 西尾俊子
参加者50名

欠席者の便りから

夜は出かけない事にしていきます。皆様によるしく。八十六歳となり、それなりに元気でやっています。 浅野清彦

一昨年頃より関西支部の例会や集会に参加出来なくなりました。前立腺がんと右、肺がん治療のため京都府立医大病院で入院を繰り返していたからです。幸い両方とも早期発見にて二度とも命拾いをしました。ただ脚力と体力が激減して、とても大阪までは無理となりました。 阿部恒夫

昨年のドロミテにつづき、今夏もチロルの山旅を楽しみました。

た。暑さにめげずに分水嶺山行にも頑張って参加したいと思っています。 新本政子

3月から咲き始め、4月、5月に最盛期を迎えた金剛山の春の野草たちも、6月に入りめっきりその数を減じた。これからは又、夏の花が楽しみである。ギンバイソウ、ササユリ、フシグロセンノウ、イワタバコなど。毎年出会える喜びは、今の私には大切なものである。同じ花でも年を追うごとに違った印象を受けるのも嬉しいプレゼントである。 川田哲二

丁度、ロシア沿岸地方(ウラジオストック・ハバロフスク他)滞在と重なり欠席します。残念。 清瀬祐司

7月26日、台高の白鬚岳に登って来ました。頂上には新宮やまびこ会が建てた立派な石碑があり表面には「今西錦司先生一五〇〇山目の山」とあり、裏面には

「一山一峰に偏せず
一党一派に偏せず 錦司書」と刻まれていて感動しました。いい山ですが七十七歳にはハ-